

定期健診が
あなたの健康
を守ります

健診センターだより

編集発行
公益財団法人 とくしま未来健康づくり
機構 (徳島県総合健診センター)
公益財団法人 日本対がん協会徳島県支部
公益財団法人 結核予防会徳島県支部
〒770-0042 徳島市蔵本町1丁目10番地3
TEL (088) 633-2266(代) FAX (088) 633-1811

大腸がんについて

公益財団法人とくしま未来健康づくり機構 診療部 医長 久保謙一郎



1. はじめに

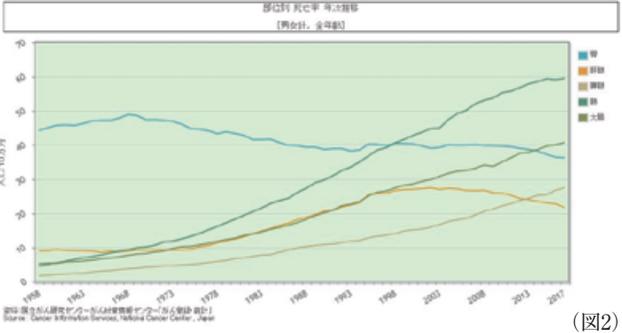
近年、大腸がんは罹患率 (図1)、死亡率 (図2) ともに増加の一途をたどっています。男女別では以下のようになっています。

【罹患数が多い部位別順 (2014年)】
男性: 胃、肺、**大腸**、前立腺、肝臓
女性: 乳房、胃、**大腸**、肺、子宮
男女計: **大腸**、胃、肺、乳房、前立腺

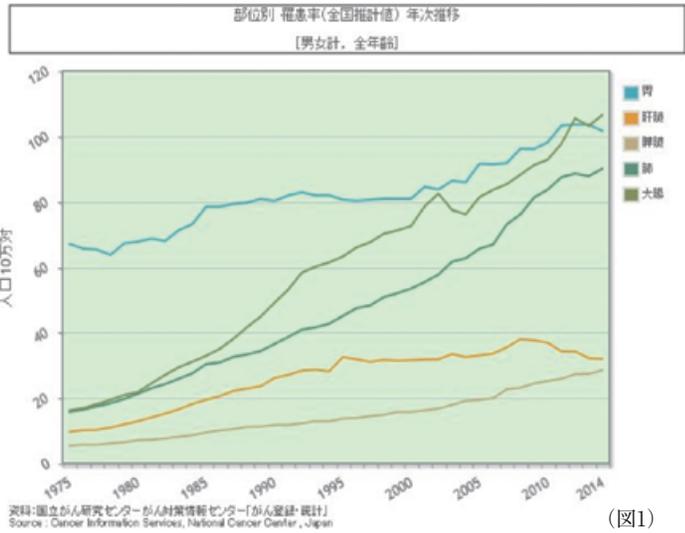
【死亡数が多い部位別順 (2017年)】
男性: 肺、胃、**大腸**、肝臓、膵臓
女性: **大腸**、肺、膵臓、胃、乳房
男女計: 肺、**大腸**、胃、膵臓、肝臓

2. 大腸とは?

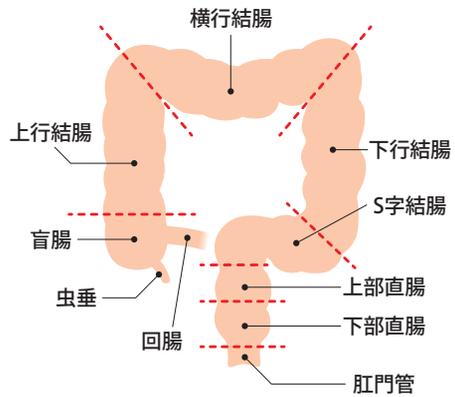
大腸は結腸(盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸)と直腸から成り立ち、長さは1.5mから2mほどで、主に摂取した食物の水分吸収を担っています。



(図2)



(図1)



(図3)

(出典:公益財団法人 日本対がん協会ホームページ 大腸がんの基礎知識)

3. 大腸がんとは?

大腸がんは、先述の結腸、直腸の粘膜に発生し、好発部位はS状結腸と直腸です。そのがん細胞は次第に深部へ浸潤し大腸壁内の血液、リンパ液内に侵入後、肝臓や肺などの他臓器、大腸周囲や遠隔のリンパ節へ転移します。

4. 原因は？

生活習慣や身体的特徴と関連があると言われていて、赤身肉、加工肉、脂肪分の摂取増加、食物繊維の摂取減少、喫煙、飲酒、肥満によるもの、他に家族の病歴などが原因となります。

5. 症状は？

早期段階ではほとんどなく、進行するにつれて、がんの発生部位、進行度合い、個人の感受性によって違いはあるものの、一般的に血便、下血、下痢便秘反復、残便感、便柱狭細化、腹痛、腹部膨満感、腹部腫瘍自覚、^{るいそ}羸瘦などがあります。

6. 検査と診断は？

- 1) 直腸指診:指を肛門から直腸内に挿入して病変の有無を診ます。
- 2) 便潜血検査:主に集団検診、人間ドックで試行され、大便表面の血液付着の有無をみます。
- 3) 腫瘍マーカー(血液検査):CEA(シー・イー・イー)とCA19-9(シー・エー・ナインティ・ナイン)というマーカーが一般的ですが、進行大腸がんでも異常値を認めないことがあります。また、治療後の再発や転移の指標にします。
- 4) 注腸造影検査:空虚にした大腸内へ経肛門的にバリウムと空気を注入し、X線写真を撮影します。
- 5) 大腸内視鏡検査:大腸内に内視鏡を挿入し、盲腸から直腸まで観察します。病変を認めた際は組織の一部を採取し、病理診断(光学顕微鏡にて良性悪性の鑑別)が可能です。
- 6) 大腸CT検査(CTコロノグラフィ):検査前日に専用の検査食と造影剤と下剤を服用し、当日は経肛門的に大腸内へ空気(または炭酸ガス)を注入してCT撮影をして大腸の立体画像を構築し、あたかも大腸内視鏡検査を施行したかのような画像を作成します。
- 7) 腹部超音波(腹部エコー)検査:大腸がん(ほとんど進行が

ん)そのものが認識できることもあります。周囲臓器との関係や転移の有無を調べます。また、治療後経過観察時の再発や転移の有無も調べます。

8) CT、MRI検査:治療前に周囲臓器への浸潤や転移を調べます。また、治療後経過観察時の再発や転移の有無も調べます。

9) PET検査:^{ベット}がん細胞が正常細胞において3~8倍のブドウ糖を取り込むという性質を利用しています。ブドウ糖類似成分の検査薬を点滴投与し、しばらくしてPET撮影するとブドウ糖が多く集積するところが目立つため、がんを発見する手がかりとなります。

7. 治療方法は？

- 1) 内視鏡治療:病変が早期がん(原則粘膜層内に局在する)の場合、先述の大腸内視鏡を使用し、専用の器具を用いて病変を剥離、または切除します。
- 2) 外科手術:原則手術による切除が基本であり、腹腔鏡手術と開腹手術があります。
- 3) 化学療法:抗がん剤治療のことで手術前に病巣の縮小効果を期待して施行、もしくは手術後の再発予防目的、または再発例や手術不能例において延命、生活の質向上を期待して施行します。
- 4) 放射線治療:X線を体外もしくは直腸内(直腸がん症例)から照射し、がんを縮小させます。
- 5) 分子標的治療:がん細胞における分子レベルでの標的を定め、その細胞の増殖、転移を抑制することが期待されますが、前述の化学療法、放射線療法と併用します。

8. おわりに

大腸がんは肺がんとともに近年急速に増加しており、日本における大腸がんの罹患数は年間13万4千人、死亡数は5万人となっています。定期的に検診を受診し、前述のような症状がみられる時は消化器科、胃腸科を受診しましょう。

デジタル胸部 検診車紹介



この度、公益財団法人結核予防会を通じて、一般財団法人日本宝くじ協会の平成30年度デジタル胸部検診車整備事業により、最新鋭のデジタル胸部検診車を更新整備いたしました。

今回、整備した新しい検診車は、X線を検出するデジタルラジオグラフィシステムを高感度で高精細・高画質のものとすることで受診者の被曝線量が軽減し精度の高い検診が実施できるとともに、検診車内をバリアフリーとすることで受診者の安全性を向上し高齢者やお体の不自由な方に優しい検診が実施できます。

また、検診時の外部電源が確保できないときの電源を

ニッケル水素蓄電池とすることで無公害検診車としています。

当機構といたしましては、この最新鋭の撮影機器を搭載した新しいデジタル胸部検診車を駆使して県内全域を巡回し、県民の皆様のがん等の早期発見、早期治療、健康増進を図るため、この検診車を大いに活用させていただきます。



整備事業費
47,390,400円

一般財団法人日本宝くじ協会による
全額補助



平成30年度 健康を考える県民のつどい



9月はがん征圧月間として、全国各地でさまざまな行事が展開されました。徳島県では「健康を考える県民のつどい」が、徳島県、公益財団法人とくしま未来健康づくり機構、全国健康保険協会徳島支部、徳島県教育委員会の共催により、去る9月11日、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）において関係団体、市町村保健担当者、婦人会等約520人の参加を得て盛大に開催されました。

表彰式典では、主催者のあいさつの後、健康づくり推進活動に功労のあった個人9名と4団体に徳島県知事表彰が贈られ、続いて、当機構からは、住民の健康づくりとがん並びに結核予防対策事業の推進に貢献のあった個人2名と1団体に理事長表彰を贈呈しました。また、よい歯の高齢者として360名に徳島県歯科医師会長表彰が贈呈されました。

式典終了後、徳島県医師会糖尿病対策班班長・社会医療法人川島会川島病院糖尿病科部長野間喜彦氏から「糖尿病の予防と対策」というテーマで、続いて、公益財団法人とくしま未来健康づくり機構診療部医長勢井雅子氏から「がん予防とがん検診」というテーマでそれぞれ基調講演がありました。

今回のつどいの参加を機会に、皆様が健康で快適な生活の確保を図るため、一人ひとりが健康の重要性を認識し「自分の健康は自分で守る」という自覚をお持ちいただくことで「健康を考える県民のつどい」の成果があったものと考えております。

受賞者紹介

(敬称略)

★健康づくり推進活動

功労者知事表彰

(個人)

森本 知世子

福島 朝代

賀喜 節代

濱本 雅代

演田 悦子

奈良 貴美子

山田 景子

村田 幸子

飯田 久美子

(団体)

阿南市食生活改善推進協議会

(企業部門)

東海運株式会社

四国建設コンサルシント株式会社

千松自動車株式会社

★糖尿病克服応援キャッチコピー

優秀作品

(最優秀賞)

「打糖!! 糖尿病」

齋藤 希空

(優秀賞)

「甘くない! 糖尿病」

平田 敬子

「糖尿病怖いよ、辛いよ、合併症」

村田 文子

★がん並びに結核予防対策

功労者理事長表彰

(個人)

島田 久夫

吉岡 真里

(団体)

阿南市婦人連合会

RFL (リレー・フォー・ライフ) 徳島2018 ~東新町商店街としおかぜ公園の2カ所で開催~

リレー・フォー・ライフとは1985年にアメリカワシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会の医師が始めたのが最初で、がん患者やがんを克服した人たち、また、その家族、友人、医師などが十数人ずつのチームを組み、リレー形式で24時間歩き続けることで、がんと闘う人たちの勇気を称え、社会支援を呼びかけるイベントです。

徳島県では、徳島市の東新町商店街と小松島市のしおかぜ公園の2カ所での開催となりました。

「リレー・フォー・ライフとくしま」では、パンフレットを配布するとともに、乳がんの無料検診を実施しました。

また、「リレー・フォー・ライフ小松島」においては、乳がん、肺がんの無料検診を実施し、パンフレットの配布、乳がん触診モデルの展示を行うとともに、当機構の30名の役職員でチームを編成し、リレーウォークに参加しました。

リレー・フォー・ライフはたくさんのボランティアの方々の協力が必要です。

是非、リレー・フォー・ライフの趣旨をご理解いただき、ご参加くださいますようお願いいたします。



結核予防複十字シール運動 キャンペーン

9月24日から30日の結核予防週間中に、全国各地で複十字シール運動キャンペーンが実施されました。

この運動は、複十字シールの意義や目的を広く一般に伝え、結核予防の普及啓発を目的として全国一斉に行われます。当機構でも「健康を考える県民のつどい」開催時に、あわぎんホールにおいて、徳島県と徳島県婦人団体連合会(全国結核予防婦人団体連絡協議会徳島県支部)の協力を得てパンフレットを配布し、結核検診の受診と複十字シール募金運動への協力を呼びかけました。

このような活動を通じて、忘れがちになっている結核に関心を持っていただければと考えております。



～全国一斉複十字シール運動開始～ 都道府県知事表敬訪問

結核のない世界をつくるための募金活動、複十字シール運動が、結核予防会各県支部が各都道府県知事を表敬訪問し、全国一斉にスタートしました。

徳島県でも、公益財団法人とくしま未来健康づくり機構(結核予防会徳島県支部)と一般財団法人徳島県婦人団体連合会(全国結核予防婦人団体連絡協議会徳島県支部)とが共同で徳島県知事を訪問し、複十字シール運動の意義、目的をご理解いただき、各自自治体から結核予防思想について広く一般に伝え一層の普及を図っていただくよう運動への協力をお願いしました。



～複十字シール運動～

複十字シール運動は、世界中の結核を撲滅し、肺がんやその他の胸部の病気をなくすため、世界の各国で行われている募金活動です。日本の複十字シール運動は昭和27年にスタートし、今日まで着実な成果をあげています。こうした活動は皆様の貴重な援助や寄付に支えられています。

複十字シール運動を通じて結核や胸の病気に関心を持っていただき、募金へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年度 募金額 2,876,772円



世界糖尿病デーにあわせてブルーライトアップ!

糖尿病の患者数は世界でも、日本でも増加しており深刻な問題となっています。

11月14日はインスリンを発見したバンディング博士の誕生日で



あり、「世界糖尿病デー」です。糖尿病の予防や治療を喚起するためのシンボルマークはブルーサークルで、世界糖尿病デーの日を中心にいろいろな場所や建物が青色にライトアップされます。

当機構でも、11月12日から30日までの約2週間、施設建物前の植木をブルーライトアップしました。



お知らせ

ホームページについて

当機構のホームページにも健康に関する情報を掲載していますので是非、アクセスしてみてください。

ホームページ

URL <http://www.toku-souken.ne.jp/>



健診センター地図

当センターにお越しの方は、駐車場より赤の矢印の方向にお進みください。(近道になります)

※実線 — : 駐車場までの自動車進路、
点線 : 徒歩進路

バス

徳島バス・市営バス：中央病院前下車
徒歩1分

J R

JR蔵本駅下車 徒歩3分

駐車場案内

